

## 14. 手編機による毛糸編物の研究 (第1報)

### ゲージの採り方 (純毛中細毛糸によるメリヤス編)

昭和女子大 岡野 都

1. 手編機により作品を製作する場合、まず使用糸で試編(40目40段又は50目50段)をし経緯10cmの目数、段数のゲージを測定し、然る後採寸に依り編成ゲージを算出、製図し初めて編方にかかるのである。しかし編成された作品は必ずしも要求した寸法に出来上らぬことがしばしばである。これは算出の基礎となるゲージの採り方に疑義があるのではなからうかと考察し、これについて次の方法により検討をしたことを報告する。

2. ①実験試料及器機, a. 供試糸 N社V印中細純毛 Top 染毛糸(17番手4本撚)。b. 手編機 M社MH・10型(但し tension spring, 糸掛補助器のみ正確を期するためMH・15型の使用)。c. ゲージ及幅・長さ測定 stainless-steel 精度  $\frac{1}{2}$  30cm尺, d. 厚さ測定器 thickness gauge e. 重さ測定器 化学天秤 ②実験方法 中細該当の編方目盛3, 3.5, 4, 4.5, 5, 5.5, 6の7段階を(1)40目40段, (2)50目50段, (3)60目60段, (4)70目70段の四通り計28種のを各3枚編み、操作直後、12・24時間後につき経緯10cm間のゲージを置尺により測定比較検討した。

3. a. 各目盛について経方向は(4)>(3)>(2)>(1)と2.5~5%の差を生じ、緯方向はほぼ同目数を認めた。weft loopingの組織上収縮率は経>緯であることも考え、メリヤス編の場合試編は50目70段以上を必要とする。b. 時間隔差に依るゲージは経緯とも24時間後がより大であることを認めた。